

組

舞台の表
置を試し
たり工夫
したりす
る

的構成を基盤として、建てられなければならないと思う。
そこで我が園の地域環境と園児の性向について少し述べてみよう。

どの組もだいたい劇遊びの大詰めです。一つの劇の主題にからまりついて、そこから汲みつくせるだけのものを汲み、打ち出せる限りを出そうとしています。どこもみんな、キューッと集中しています。D組だけがお芝居ごっこをしていますが、本当に、ここだけは他の組とは少しがった遊び方をしています。芝居というものを全部子どもたちの力で組み立てているのです。舞台の構造も、人の出し入れも、レコードや拍子木を入れる箇所も、語り手のことばまで自分たちで考えてやりました。こうして一週間後には、卒業記念の発表会にもち込んだのですが、一つ一つみなたへん力のこもったものであることが見えました。それは、猿芝居の無味乾燥な反復練習の結果のうるわしさではなく、生きて歩み続けた里程の重みなのです。こうした厚味が子どもの内にもできることを私は初めて今年経験しました。どの子もみな充実感から来る落ち着きとハリを自然の姿の中にもっていたのです。

これが私たちの保育一年の成果だと正に感じました。

名古屋私立青葉幼稚園

山 口 た つ

年少組

二年児年少組 男 三〇名
女 二五名

二年児年長組 女 一〇名

二年児年長組 男 二五名
女 三五名

二年児年長組 男 三五名
女 二五名

二年児年長組 男 三五名
女 四五名

年長組

一〇五名 男 六〇名
女 一〇名

位置、東山動物園の西方、丘陵地で別荘、住宅地帯、附近には灌木雑草が繁り、四月頃には全山山つつじにおおわれ、保育室の窓ガラスも紅に映える美しさ、五月頃の新緑、そのあざやかさもまた一樣である。このように自然環境には恵まれております。子どもたちは、日々頬を紅潮させ、息をはずませて、坂道を駆けあがつて来る。清澄な青空が子どもたちにほほえみかけ、都会の騒音の中にいる園に比べれば別天地の感があり、この恵まれたこの環境をいかに保育の上に生かしていくかということだとと思う。

家庭環境は、俸給生活者がほとんどで、文化的水準の高い中産階級の両親は、子どもの教育に、深い理解と、熱意を示している。園児のうちわけは、左のごとくである。

教育の計画は、常に実践の場である幼稚園自体の地域環境と、人

幼児の性向は、こうした地域家庭の環境をバックとして、育てられた子どもたちは、知的に相当つめこまれているが、身体的活動

は、あまりそれに伴わず、正常に発達していない。頭デッカチな子どもが比較的多く、神経質で、感受性の強い傾向を見受ける。反面素直で、明るく、人なつっこい性質を持っている。

教育の計画と方針

「方針」

運動能力を高揚し、頑健な身体を作る。友だちと協調して仲良く遊ぶことのできる社会性を養い、我慢して一つのことをやりとげる強い意志力をつちかいたい。感謝と謙譲の心の芽生えをつちかいたい。

「計画」

1 年間計画を四月の始めに全職員協議の上この方針にそつて立てる。

2 月間計画、週案、日案は各職員が、各組の実状をよく考慮して立案する。それを毎週金曜日の打合会で協議して、横の連閼をはかる。

3 週案の抜すいしたものを、家庭へ土曜日に印刷して届ける。一週間の幼稚園のあり方を理解して、協力していただく。左に一例を示す。

○来週の予定をお知らせいたします

4 月 うとんべお (代休)	3 曜 白 休 園	日 青 組	月 赤 組												

事予定	9	8	7	6	5
八日(金)一日入学	土 おやつ 学校ごっこ	金 給食 制作自由	木 おべんとう 既習歌曲の 歌 遊び	水 ひなまつり の絵 水彩画	火 一日入学 東山小学校 同上
六日(水)教養講座 大西誠一郎先生 名大教授	三日(日)おひなまつり遊戯会	同 上	同 上	同 上	同 上
導目標	○人にたよらず自分の 事は自分でしましょ	薄板製作	紙細工 好きなもの を作りまし ょう	木片、ボール 空箱、針金、 布切れを持参 させて下さい	器楽合奏 子どものダンス ス 蝶々 クレバス用 水クレバス餅 入学

3	月行	一一日(月)体重測定
	一二日(火)お別れ遠足	(鶴舞公園)
	三四日(木)PTA誕生会	
	一九日(土)園児誕生会	
	一九日(火)卒業式	
	生 活	指 导
	○ 鼻をかみましょう	○ 集会の時の礼儀作法
	○ うがいをしましょう	を正しくしましよう

とくに生活指導の面で、家庭の協力を願うわけである。

一週は大体六項目にそつて、一日の主題を定める。

月曜日 「言語」生活発表などを通じて言語の練習をする。

火曜日 「絵画」いろいろな材料を与えてのびのびと描かせる。

水曜日 「音楽リズム」歌曲、リズム表現、器楽合奏などをさせ

る。

木曜日 「自然、社会」一週間交替にする。

ごっこ遊び、社会見学、自然観察、草花の手入れ、動物の飼育などをする。

金曜日 「製作」いろいろの材料を使用させて創意工夫して製作に当るようにさせる。

土曜日 「音楽リズム、絵画製作、言語、社会」

この項目に、三教室を区分して、それぞれ研究している先生方に

の好むところに、所属して、作業をさせる。三組を解体して、保育

をする。担任教師のみでなく、どの教師にも、親しみと信頼と尊敬の念を持たせるため、教師も全園児の名前をしっかりと覚えて、どの

子にも親しく接し、導くことのできるようにさせたいために、実施している。

当園においては、戸外遊びを、とくに奨励している。自由遊び時間の幼児の戸外遊びは、いろいろな運動器具、遊具を使用して、活動に活動を開くように、配慮している。

「PTA、母の会」の運営

十五日を、毎月定例母の会として、保育参観をしてもらう。参観後三十分間位、園長が、教育内容六項目について、一項目ずつ説明し、当園ではどのようにしていいるか、ということを話し合う。そして、正しい幼稚園教育のあり方を理解してもらう。七割以上の出席率で、熱心に参観される。

毎学期一回、個人面接を行う。一人三十分間窓、懇談をする。家庭における幼児の生活態度を尋ねたり、幼稚園における態度を、聞かせたりする。こうすることによって、幼稚園に親しみと、深い関心を持たせる。できるかぎり、正常な眼で、冷静に子どもを観察していただきよう、努力している。

立案された教育の計画を、効果的に実践、徹底させるためには、どうしても、幼児と一番接触する時間の多い母親に、積極的に働きかけて、その人の理解と協力を得なければ駄目だ、と私は信じて、母親教育に重点を置いて、昭和三十一年度は、努力してみた。その一方法として、「PTA誕生会」というものを設けた。その様子を次に詳述する。

「PTA誕生会」

出席者 その月誕生日を迎える幼児と、その母親、教師。

日時 每月二十日を定例日として開く。午後二時から三時半頃までする。

母親に招待状を出し、その月の誕生児の数により、バースデーパー

ーキを注文して用意しておく。

円形に座を取り、親子並ぶ。だれの顔もよく見えるようにする。

談笑することのできるようふんいきを作る。司会は教師が、当番で、順番にする。

1 お祝の歌を全員で歌う。

2 園長が、お祝いの挨拶を子どもと親にする。

3 談笑のうちに司会の教師の指名によって、一人ひとりの母親

に、子どもの生まれたときの様子をこまかく話してもらう。

幼稚園にはいるまでのいろいろなくせや、性向について話し

てもう。エピソードをまじえて。

「生れたときは九百匁もありましたので、なかなか生まれにくくて、難産でした。毎日人手ないので、誕生近くまで寝かせてばかりいましたので、足もおそらく、ものもちっともいわない

ので、おしではないか、と心配しました。」

4 お話ししが全部すむと、バースデーケーキを、テーブルに配置し、紅茶を入れ、先生がケーキを切つてお皿に取りわける。

5 ケーキや紅茶をいただきながら、幼稚園における子どもの生

活態度のいい面を、強調して話し、子どもたちに成長の喜びを味わわせる。

6 子どもたちが、「大きくなつてありがとう」の歌を合唱し散会。

大体以上のような順序です。小人数の母親の集まりなので、ど

の方とも、楽な気持で、親しくよくお話をができるので、一人ひとりの母親の気質も、全職員にのみこめ、子どもの生い立ちもよく理解され、子どもたちも、ほんとうに、お誕生の喜びを心から味わうことができたようで、成功だったと思う。

教育の方法について少し述べてみる。

「一学期の保育形態」

一、資育的取り扱いを多く取り入れ、團體生活に早く馴れさせる。

一、毎朝自由な形で、園庭に參集させ、幼児体操をする。

二、四月中は大体新入園児は見ているが、漸次その中に、導入されて、リズムに合せて、簡単な動作からするようになる。五月には捕つてできるようになる。(五分)

三、レコードに合せて、歩く、跳ぶことなどをして園庭を一周する。(五分)リズムに馴れさせ、自然にリズムがとれるようになる。

三、保育室にはいり、休憩後、一定の保育活動にはいる。(二十分)(三十分)

遊びの時間を、充分にとらせるように、配慮している。自由遊びの時間には、集団的な遊びを、教師が仲間にはいり、中心になつて、誘導する。遊び方を知らせるごとと、友だち同志が、親しくなるよう留意してする。「花一匁目。ロンドン橋、竹の子など」「二学期の保育形態」

一、月木土 園庭に全員集合、幼児体操をする。

二、月 一週間のお約束をする。週間中の行事について説明する。

木 お約束が、よく守られているかよく反省させる。

土 一週間の反省をさせる。日曜日の爪切りの約束をさせる。(三分~五分)

三、火 金 登園した子から、各組ごとに、担任が、自由な保育活動に、誘導していく。

四、水 全園児が、登園したら、自由に、四つの保育室に分かれて、グループ活動をする。年長組と年少組が合流してする。音楽リズ

ム、絵画製作、言語、社会、自然の四項目に分れ、それぞれ教師

が自己的研究課目を担当して、指導にあたる。園児が、どの組の教師にも、親しみと、尊敬の念をいだかせることと、どの組の子とも、仲良く、協力して、作業するとのできるようにさせたいためにこの方法をとつてみた。

五、土 遊戯室に全園児が、集合して、音楽リズムを中心とした遊びをさせる。

各保育室は、オルガンでしているため、ピアノにより、正しいリズムのとり方を、把握させる。集団で友だちのすることを、静かに、見たり、聞いたりする習慣形成を、大勢の友だちの前で、憶せずするという、積極性、社会性を培うために実施している。

「三学期の保育形態」

一、月 木 朝、集会して、体操させる。

二、火 金 は二学期の形式に同じ。

三、水 土 遊戯室で、全員でリズム遊び、器楽遊び、劇遊びなどをする。

三学期は、一年生に進学する幼児が、全園児の三分の二を占めているので、小学校の学習形態を取り入れ、一定の時間（三十分位）部屋の中で作業するように、カリキュラムをくんでいる。大きな集団で、活動することもできるよう考慮している。ごっこ遊びも、全員で、それぞの持ち場を決めてする。

「学校との連絡提携」

全員、東山小学校という、連区の学校へ、入学するので、連絡に

は大変都合よく、密接にできます。

「進学座談会」

一年担任の先生に全員（八名）出席してもらい、進学する子の母親との懇談会を開いていろいろ話し合いをする。

1、幼稚園から来た子どもの特徴、長所、短所。

2、文字の問題、数の問題。どの程度に、教えておくか。

3、給食の問題。

4、用具の問題。など

「一日入学」

就学する園児を全員小学校へ連れていく、一日、一年生の子どもといっしょに生活させてもらう。八組あるので、八つのグループに分けて、各教室の一年生のお友だちと、いっしょに絵をかいたり、歌をうたったり、本を読むのを聞いたり、紙芝居を見せてもらったりして、すごす。

校長先生から「四月みなさんのくるのを、みんなで待っています」という、お言葉をきいて、もう一年生になつたような誇りと喜びを、かわいい顔にうかべて、幼稚園に帰つて来る。帰るとすぐ、グループに分れて学校ごっこをして遊んでいる。算数の時間、国語の時間、図画の時間、音楽の時間、体操の時間などといつて、楽しく遊びに再現する。

「入学期の幼児を持つ母親の心構えについて」

心理的立場から、専門家の先生にお願いしていろいろとお話を伺う講演会を持つ。そして、充分な心構えを作つてもらう。子どもたちが、四月から入学して、安定した気持で入学し、學習に励むことのできるよう、温く見守るようにしている。